第２章　秋田県のすがた

第１節　自然特性

１　位置・地形

本県は東北地方の北西部に位置し、総面積約１１，６００ｋｍ^2、全国第６位の広さを有しています。

県土には米代川、雄物川、子吉川の三大河川をはじめ３４８の河川が走り、各地に水の恵みを与えています。

田沢湖は全国一の水深を誇り、十和田湖は２重式のカルデラ湖として有名です。

また、八郎湖は、国営八郎潟干拓事業により残存した淡水湖です。

沿岸部の中央には寒風山などの火山を擁する男鹿半島が雄大な造形美を誇り、その南北には長大な海浜がゆるやかな海岸線を形成しています。また、県境部や内陸部の山岳地帯にはブナ林をはじめとする自然林が広くみられます。

青森、秋田両県にまたがる白神山地は、広大な原生的ブナ林を擁し、世界遺産*に登録されています。

２　気候・気象

気候特性は、海岸部と内陸部で顕著な違いがみられます。対馬暖流の影響を受ける八森海岸、男鹿半島、由利地方は冬季でも比較的温暖ですが、内陸部では奥羽山脈沿いほど気温が低く、寒暖の差が大きいのが特徴です。

年平均降水量は、山沿いでは平地より多く、特に白神山地、森吉山、鳥海山、丁岳山地などは降水量の多い地域です。

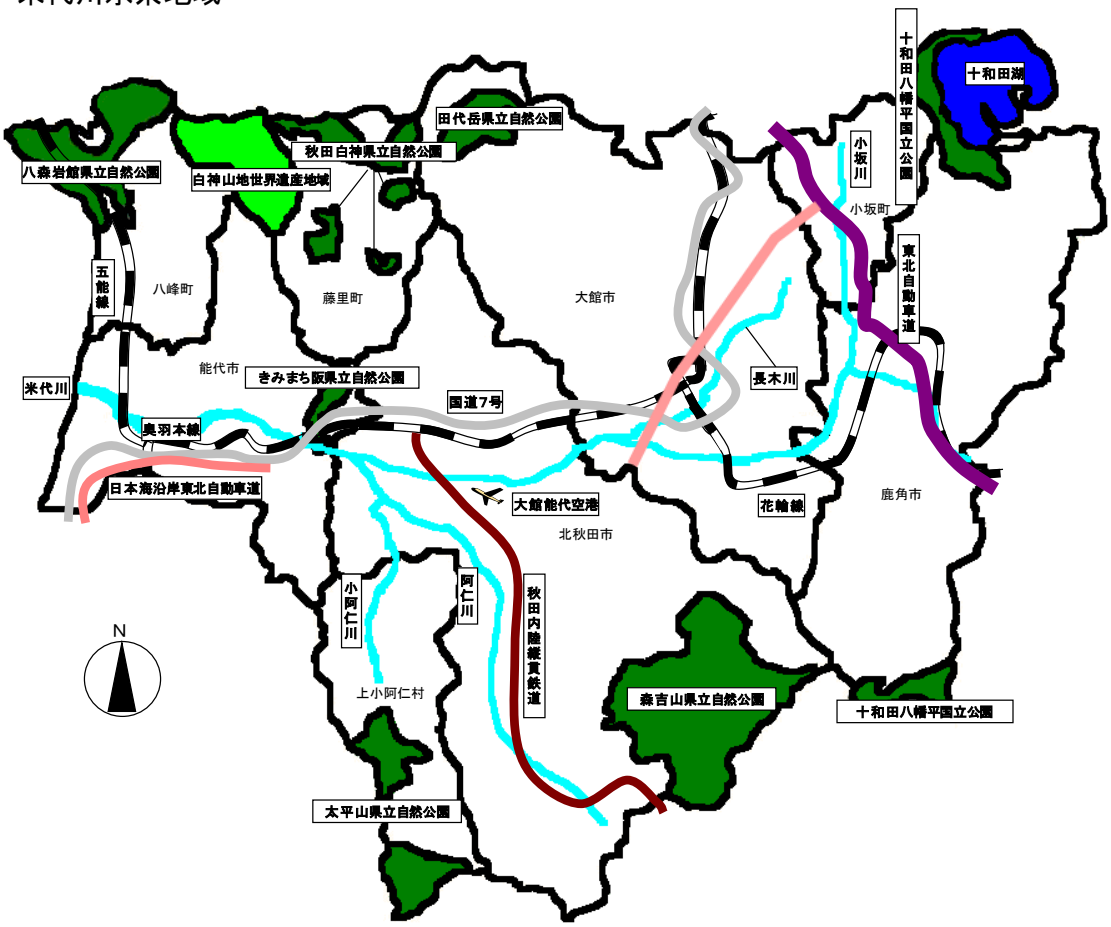
本県は、全域が積雪寒冷地域及び豪雪地帯に指定されている日本有数の多雪地帯であり、北部の森吉山周辺及び南部の雄勝地方は、特に降雪の多い地域となっています。

地域名	市町村名
米代川水系地域	能代市、大館市、鹿角市、北秋田市、小坂町、八峰町、藤里町、上小阿仁村
雄物川水系地域	秋田市、横手市、湯沢市、大仙市、仙北市、美郷町、羽後町、東成瀬村
子吉川水系地域	由利本荘市、にかほ市
男鹿・八郎湖地域	男鹿市、潟上市、三種町、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村

３　地域の環境特性

米代川、雄物川、子吉川の三大水系とこれを取り巻く植生*などを軸とする自然環境の連続性に着目して、これらに男鹿・八郎湖地域を加えた４地域の状況は次のとおりです。

（１） 米代川水系地域



①概況

米代川は源を秋田、岩手、青森県境の中岳に発し、花輪盆地、大館盆地、鷹巣盆地、能代平野を潤しながら、阿仁川などの大小の支流を合わせ、日本海へと注いでいます。

本地域では、原生的なブナ林が評価され、世界遺産に登録された白神山地をはじめ、十和田八幡平国立公園や６つの県立自然公園*（他地域と重複するものを含む。）が指定されるなど、山岳部を中心に豊かな自然環境に恵まれています。

海岸部は比較的温暖ですが、山間部は多雪で根雪期間が長く、鹿角市をはじめ多くの市町村が特別豪雪地帯に指定されています。

本地域では豊富な水資源や森林資源を背景に、農業や林業が地域経済を支えてきました。山間部では畜産、盆地・平野部では稲作を基幹とした農業が盛んです。

森林の割合、林業就業者の割合などが県内で最も高い地域ですが、人口の減少や高齢化が最も進んでいる地域でもあります。

能代市や八峰町では、ヒラメやハタハタなどを中心に、「つくり育てる漁業*」を推進しています。

鹿角周辺では隣県との交通網が整備され、米代川に沿って走る鉄道や国道のほか、日本海沿岸東北自動車道の整備が進められています。

②環境特性

北部山岳地一帯、太平山北東部、森吉山、八幡平などにはブナ林やスギ天然林など、原生的な自然が広がり、動植物の宝庫となっています。

田代岳、白地山、海岸砂丘後背地などの湿生植物*群落や長走風穴植物*群落（国指定天然記念物）などは特殊な環境下に成立する学術的に重要な植生であり、貴重な鳥類や昆虫類の生息場所ともなっています。

十和田湖一帯は、トミヨ属淡水型などの淡水魚や鳥類などの生息・飛来地となっています。

米代川流域はその清冽な流れとともに河口部の広大な砂丘、海岸砂丘後背地の池沼、湿地*など多様な自然環境に恵まれ、シナイモツゴなどの淡水魚類、ガン類、ヤマセミなどの鳥類が生息・飛来しています。

流域の河川は水質環境基準を達成していますが、十和田湖では、昭和６０年度以降環境基準を達成していません。また、本地域ではかつて休廃止鉱山の坑廃水が河川に流入し、洪水等によって農用地の一部が重金属に汚染されており、県内の汚染地域の１２％を占めています。

本地域では、平成１１年１１月に「秋田県北部エコタウン」として国の指定を受け、廃棄物の発生抑制などを図るとともに、地域産業の連携による新たな資源リサイクル産業の創出や新エネルギーの導入などによる豊かな自然と共生する環境調和型社会の構築を目指し、秋田県環境調和型産業集積推進計画を推進しています。

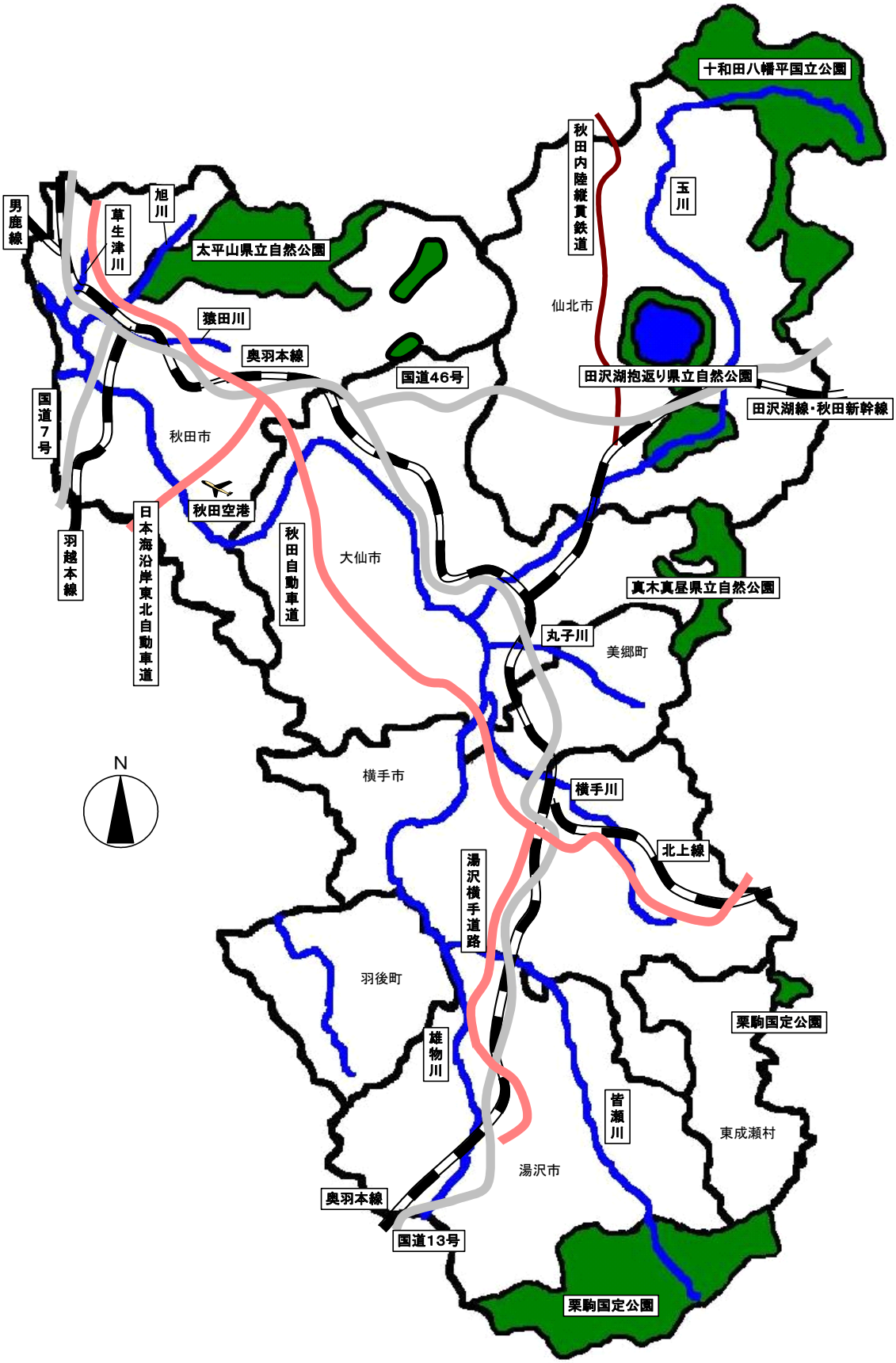
能代市のクロマツ林「風の松原」は、自然との憩いの場として親しまれ、「２１世紀に残したい日本の自然１００選」に選定されています。

環境省の「快水浴場百選」に、三種町の釜谷浜海水浴場が選定されています。

鹿角市の大湯環状列石（国指定特別史跡）や北秋田市の伊勢堂岱遺跡（国指定史跡）は、縄文時代の面影を残しています。また、国指定史跡として、能代市には、檜山安東氏城館跡などがあります。

平成２４年９月には、「八峰白神ジオパーク」が「日本ジオパーク」として認定されています。

（２） 雄物川水系地域


十和田八幡平国立公園
秋田内陸縦貫鉄道
玉川
男鹿線
草生津川
旭川
太平山県立自然公園
仙北市
猿田川
奥羽本線
国道46号
田沢湖抱返り県立自然公園
田沢湖線・秋田新幹線
国道7号
秋田市
秋田空港
日本海沿岸東北自動車道
羽越本線
秋田自動車道
大仙市
真木真昼県立自然公園
丸子川
美郷町
N
横手市
横手川
北上線
湯沢横手道路
羽後町
栗駒国定公園
雄物川
皆瀬川
東成瀬村
湯沢市
奥羽本線
国道13号
栗駒国定公園

①概況

雄物川は県南部の山形県境に源を発し、玉川など８７の支流を合わせ、横手盆地、秋田平野を経て日本海へと注ぐ県内最大の河川です。

雄物川水系の河川では、アユやイワナなどを対象とした漁業が営まれており、県内外から多くの遊漁者が訪れています。

本地域は、十和田八幡平国立公園、栗駒国定公園や３つの県立自然公園（他地域と重複するものを含む。）が指定されるなど、豊かな自然で構成され、湯量の豊富な温泉にも恵まれています。

雄物川河口に広がる秋田市は、教育・文化施設、都市機能が集中し、本県の政治、経済、生活文化の中心です。

内陸部は積雪が多く、豊富な水資源を背景に、横手盆地は穀倉地帯となっています。

本地域は秋田新幹線、秋田自動車道などの高速交通網の整備により、産業の振興とともに、田沢湖に代表される豊富な観光資源の一層の活用が期待されています。

②環境特性

八幡平一帯や栗駒山周辺などには、ブナ林などに代表される原生的自然が残されており、ニホンカモシカ、イヌワシなど貴重な動物の生息地となっています。

全国名水百選として美郷町六郷の「六郷湧水群」と湯沢市の「力水」が選定されています。

また、「六郷湧水群」は、横手市平鹿の琵琶沼（県指定天然記念物）などとともに、淡水魚のトミヨ属雄物型*の生息地ともなっています。

秋田市周辺は、工業化やこれに伴う人口の集中、市街地の拡大など、都市化の進行による都市・生活型公害がみられることから、引き続き、工場等の監視・指導や県民への啓発活動などにより、環境への負荷の低減に努めています。

田沢湖は、昭和１５年に強酸性の玉川温泉が流入する玉川河川水を導入したことにより、酸性化が進行し、魚がほとんど棲めない状態になっていましたが、平成元年の玉川酸性水中和処理施設の設置による中和事業により、ウグイやコイ等の魚類の生息が見られてきています。

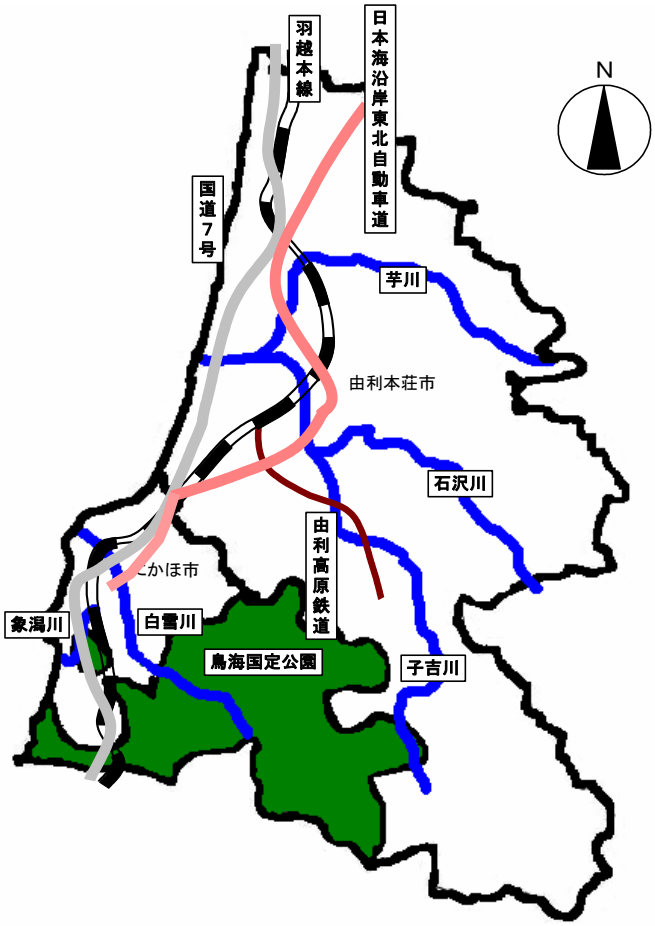
県南部の平鹿地域（旧増田町、旧平鹿町、旧十文字町）では、かつて休廃止鉱山の坑廃水が河川に流入し、それを利水したことによって農用地の一部が重金属で汚染されており、雄物川流域は県内の汚染地域の８８％を占めています。

仙北市角館では、シダレザクラ（国指定天然記念物）の並ぶ武家屋敷の街並（国選定重要伝統的建造物群保存地区）、城跡を利用した古城山公園、大仙市仙北では、払田柵跡（国指定史跡）や旧池田氏庭園（国指定名勝）などがあり、歴史的景観を形成しています。また、国指定史跡として、秋田市には秋田城跡、横手市には大鳥井山遺跡、国指定天然記念物として、美郷町には千屋断層などがあります。

平成２４年９月には、「ゆざわジオパーク」が「日本ジオパーク」として認定されています。

秋田市周辺は県内における情報の集積・発信基地となっており、環境教育・環境学習の普及・啓発の面からも、中心的役割を果たすことが期待されています。

（３） 子吉川水系地域



①概況

子吉川は県南西部の鳥海山を源とし、石沢川など大小の支流を合わせながら本荘平野を貫いて、日本海に注いでいます。

鳥海山は日本海に裾野を引く独立峰で、鳥海国定公園は豊かな自然に恵まれています。

海岸部は年間を通して県内で最も温暖な地域ですが、内陸部は冬季に寒冷で多雪地帯となっています。

鳥海山北麓の鳥海高原やにかほ高原は、酪農地帯であり、本荘平野では稲作が主体です。

海岸部の岩礁域ではイワガキやアワビを中心に、「つくり育てる漁業」を推進しています。

仁賀保地区を中心に海岸部には機械・電子産業を中心とした工業地帯が広がり、他の３地域よりも第二次産業の割合が高くなっています。

本地域の交通網は、南北に走る鉄道と国道７号が主軸となっており、高速道路へのアクセス道や日本海沿岸東北自動車道の整備が図られています。

②環境特性

鳥海山周辺では、ブナを中心とする森林が豊かな環境を形成しており、ここには稲倉岳のコメツガ群落や袖川のシロヤナギ群落など、原生的で貴重な植生も残されています。

また、ニホンカモシカ、ツキノワグマなどが生息し、イヌワシ、クマタカなどの繁殖地

ともなっています。

鳥海山北麓のにかほ高原一帯には多くのため池がみられ、その周囲にはノハナショウブ群落やハンノキ林などの湿生植物群落が広がっています。

海食崖や岩礁、砂浜や防風林など多様な環境を持つ象潟海岸は、ウミウ（「大須郷のウミウ繁殖地」として県指定天然記念物）、クロサギの繁殖地となっています。また、国指定天然記念物である象潟地区はかつて日本三景の松島と並び称せられる内湾の景勝地として知られていましたが、現在は１８０４年の大地震により隆起し、当時の面影を水田地帯の中に残しています。

県内随一の砂丘植生*が残る西目海岸は、その背後にあるクロマツ防風林と相まって、白砂青松の景観を形成していましたが、松くい虫被害により、松は壊滅的な被害を受けています。

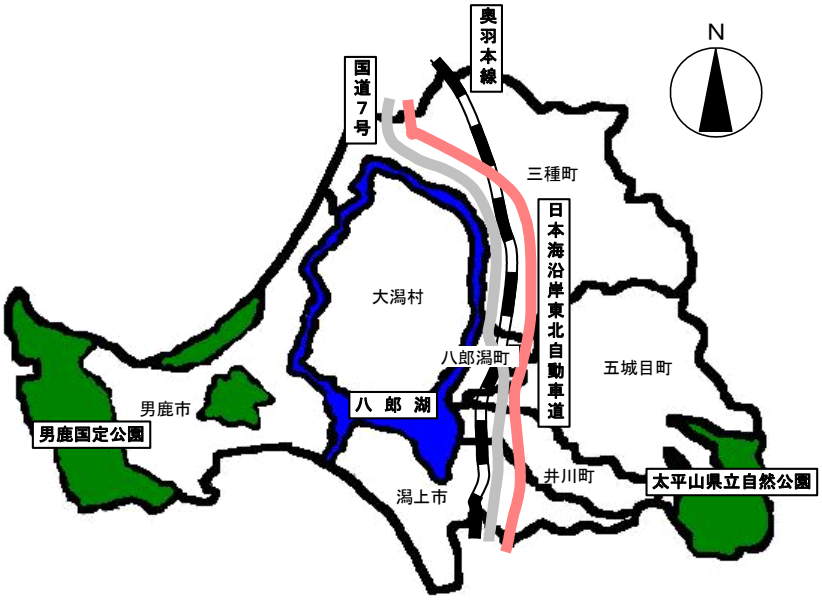
鳥海高原に展開する牧場では、自然とのふれあい施設が整備され、人々にうるおいのある空間を提供しています。

子吉川は、良好な水環境を背景として多くの生物を育み、地域の人々の生活と密接なつながりを持ってきました。

白雪川などは、鳥海山の火山活動の影響により酸性化がみられます。

平成の全国名水百選としてにかほ市の獅子ヶ鼻湿原（国指定天然記念物）“でつぼ（出壺）”と元滝伏流水が、また同市の象潟海水浴場が快水浴場百選に選定されています。

（４）男鹿・八郎湖地域



①概況

男鹿・八郎湖地域は八郎潟干拓地を中心とした平野が広がり、東部は太平山地の馬場目岳、西部は海岸段丘*、海食崖*が発達した男鹿半島、砂丘が連なる天王海岸、若美海岸など、多彩な自然環境に恵まれています。

男鹿半島一帯は、対馬暖流の影響を受け比較的温暖で冬季の降雪も少ない地域です。農業は米を基幹としており、特に八郎潟干拓地の大潟村を中心に大規模な稲作を展開しています。

沿岸部には１１の漁港があり、男鹿半島一帯ではハタハタ、マダイ、ヒラメなどを中心に、「つくり育てる漁業」による漁業を推進しています。

また、男鹿市戸賀地区や三種町森岳地区をはじめ、各所で観光振興のための拠点施設整備が進められてきました。

②環境特性

男鹿半島は比較的温暖な気候であり、半島の南岸と北岸にはヤブツバキ（「ツバキ自生北限地帯」として国指定天然記念物）などの暖地性植物が生育するほか、半島西側の本山にはブナ林などが分布しています。また、寒風山一帯には広大な二次草原*が広がり、多くの昆虫類、鳥類の生息・飛来地となっています。

八郎湖は、大潟村をはじめとする隣接市町村の農業用水として利用されているほか、ワカサギを主な対象とする漁業が営まれています。

また、八郎湖一帯には、秋から春にかけてハクチョウ類やガン類などが飛来するほか、貴重な鳥類、魚類、昆虫類が生息しています。しかし、干拓地や周辺市町村からの生活排水や農業排水などによる湖水の富栄養化が問題となっています。

天王海岸にはクロマツ防風林が広がり、後背地には出戸湿原をはじめとする湿原や池沼が残存し、多種多様な鳥類、昆虫類が生息しています。

五城目町周辺の森林は大部分がスギ人工林ですが、馬場目岳にはブナ林や渓畔林*が残るほか、二次林*がみられ、ニホンカモシカなどの森林性哺乳類*の生息地となっています。

男鹿市の宮沢海水浴場が「快水浴場百選」に選定されているほか、男鹿目潟火山群一ノ目潟は国の天然記念物に、脇本城跡は国の史跡に指定されています。

さらに平成２３年９月には、「男鹿半島・大潟ジオパーク」が東北初の「日本ジオパーク」として認定されています。

第２節　社会特性

１　人口

平成２６年１０月現在での秋田県の人口は、１，０３７千人となっており、昭和５７年以降減少を続けています。

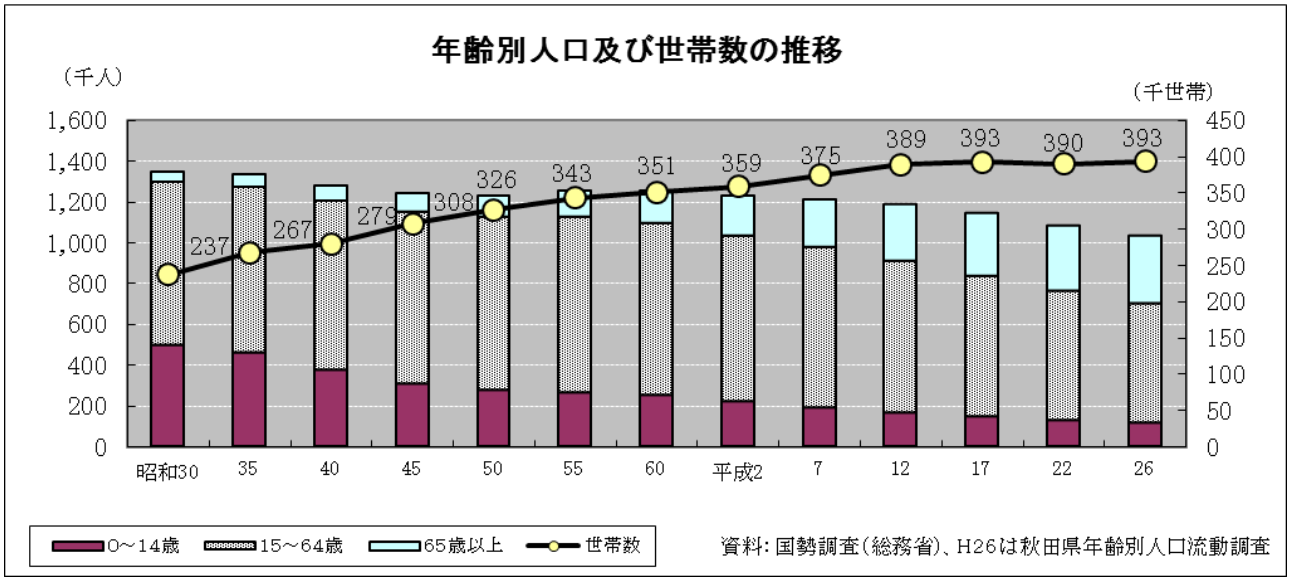
本県の人口は、進学や就職などによる県外への転出者数が県内への転入者数を上回る社会減が続いています。

一方で、本県は出生数が死亡数を上回るという自然増の状態が長く続いてきたため、社会減をある程度カバーすることができました。

しかし、平成５年に初めて出生数より死亡数が多くなり、自然減に転じました。ここ数年は出生数の減少が著しく、自然減も増大し続けています。

また、総人口を年齢３区分別の割合でみると、０～１４歳の年少人口は１０．８％、１５～６４歳の生産年齢人口は５６．５％、６５歳以上の老年人口は３２．６％となっており、高齢化が進行しています。

世帯数は３９３千世帯となっており、昭和３０年代から増加を続けてきましたが、平成１２年以降はほぼ横ばいとなっています。



２　土地利用

平成２５年現在の土地利用状況は、森林が７１．９％、次いで農用地が１２．９％などとなっています。

平成７年以降、利用区分別の構成に大きな変化はありませんが、農用地が減少し、道路、宅地は増加しています。

土地利用状況の推移　（単位：km²・％）

	平成7年		平成17年		平成21年		平成25年	
	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比
農用地	1,624	14.0	1,562	13.5	1,550	13.3	1,497	12.9
農地	1,580	13.6	1,521	13.1	1,509	13.0	1,497	12.9
採草放牧地	44	0.4	41	0.4	41	0.4	－	－
森林	8,399	72.3	8,383	72.2	8,440	72.5	8,371	71.9
原野	140	1.2	137	1.2	137	1.2	156	1.3
水面・河川・水路	396	3.4	403	3.5	405	3.5	410	3.5
道路	294	2.5	330	2.8	342	2.9	342	2.9
宅地	262	2.3	288	2.5	295	2.5	297	2.6
住宅地	166	1.4	178	1.5	181	1.6	181	1.6
工業用地	17	0.1	15	0.1	16	0.1	15	0.1
その他宅地	79	0.7	94	0.8	98	0.8	101	0.9
その他	497	4.3	510	4.4	467	4.0	563	4.8
総面積	11,612	100.0	11,612	100.0	11,636	100.0	11,636	100.0

※構成比（％）は、端数処理の関係で各項目の和とは一致しない場合がある。　資料：土地利用現況把握調査

３　産業・経済

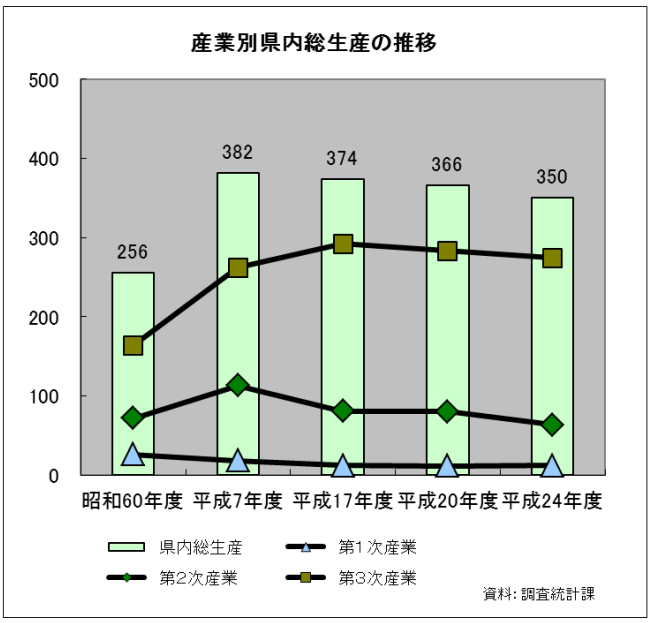
（１）産業構造

平成２４年度の県内総生産は３５０百億円であり、昭和６０年度の約１．４倍となっています。

産業別内訳は、第１次産業が３．５％、第２次産業が１８．２％、第３次産業が７８．３％となっています。

第１次産業は、減少傾向となっていましたが、平成１７年度以降はほぼ横ばいとなっています。

第２次産業は、鉱業、製造業、建設業で平成８年頃をピークに減少傾向にあり、第３次産業についても、平成１７年度以降減少傾向となっています。

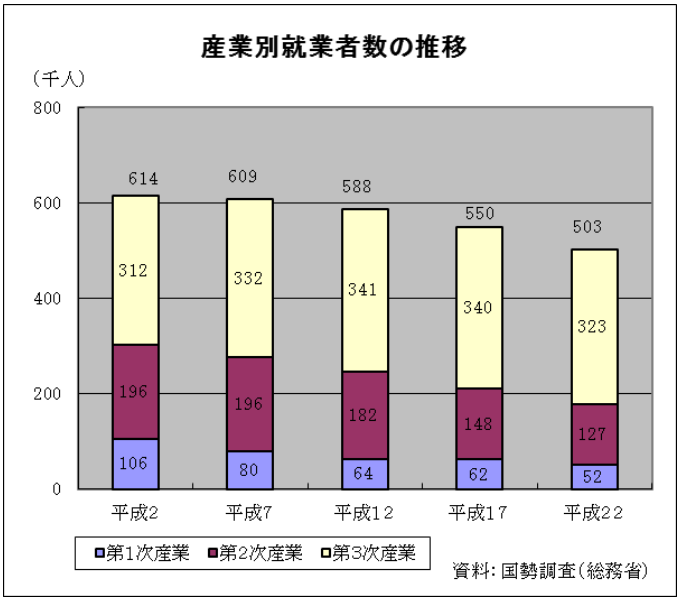


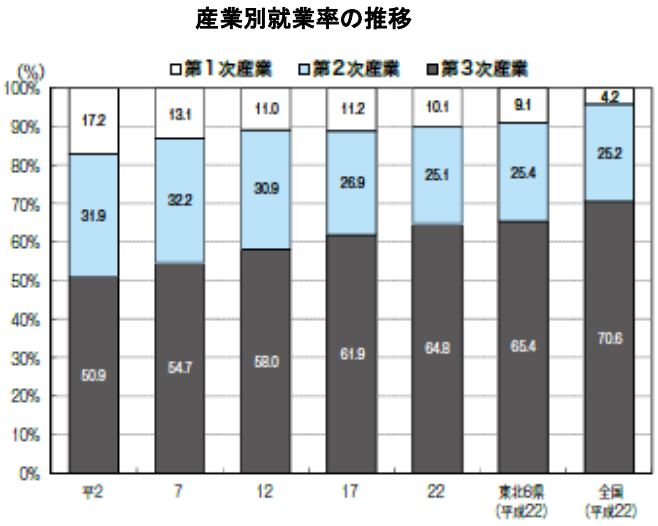
（２）就業者数

平成２２年の就業者数は、５０３千人と県内総人口の４６．３％を占めており、全国（４６．６％）と同程度となっています。

また、就業者数の推移は、昭和６０年以降減少傾向にあり、平成１２年からは全ての産業で減少しています。

産業別就業者数の割合は、農業人口が大部分を占める第一次産業が１０．１％であり、全国（４．２％）に比べて大きな割合を占めています。





資料：あきた県政概況 2015

４　水利用

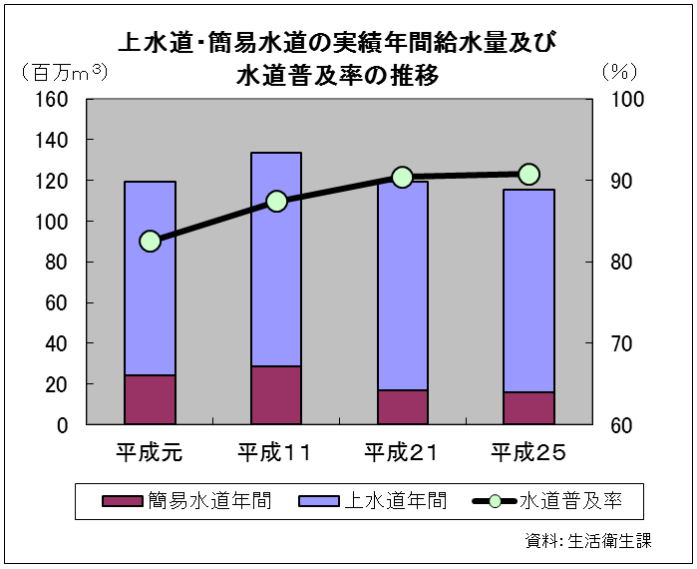
県内の水利用として、平成２５年度の上水道・簡易水道の実績年間給水量は、１１５，４２３千m³となっており、平成１１年頃をピークに減少傾向となっています。

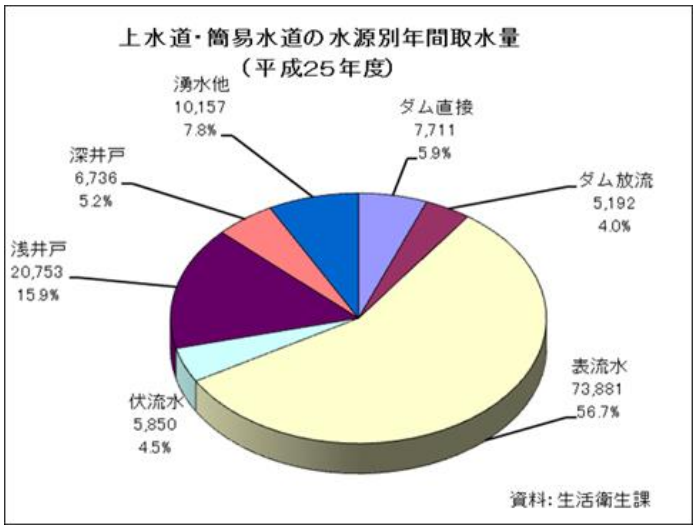
水道普及率は９０．８％と年々上昇傾向にありますが、全国（９７．７％）に比べて低くなっています。普及率が低い地域では、地下水や湧水に恵まれ、井戸等への依存傾向が強く見受けられます。

上水道・簡易水道の年間取水量は、１３０，２８０千m³であり、水源別では表流水が５６．７％、次いで浅井戸、湧水、ダム直接などとなっています。

上水道の給水量（有収水量）は８５，３０２千m³であり、用途別では生活用が多くなっており、次いで業務用・営業用、工場用などで、日常生活における利用が大部分を占めています。

また、秋田工業用水道事業では、平成２５年度に１日当たり１５４千m³の工業用水を秋田市の秋田湾区域（飯島・向浜地区）、茨島地区、御所野地区へ供給しています。

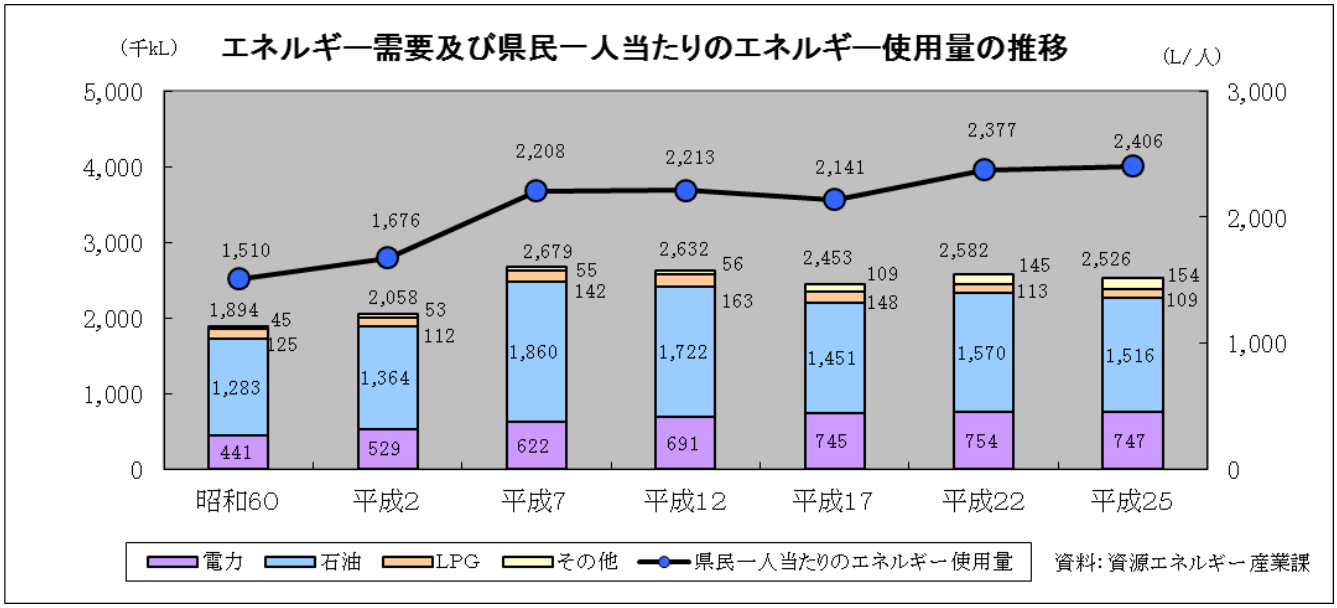
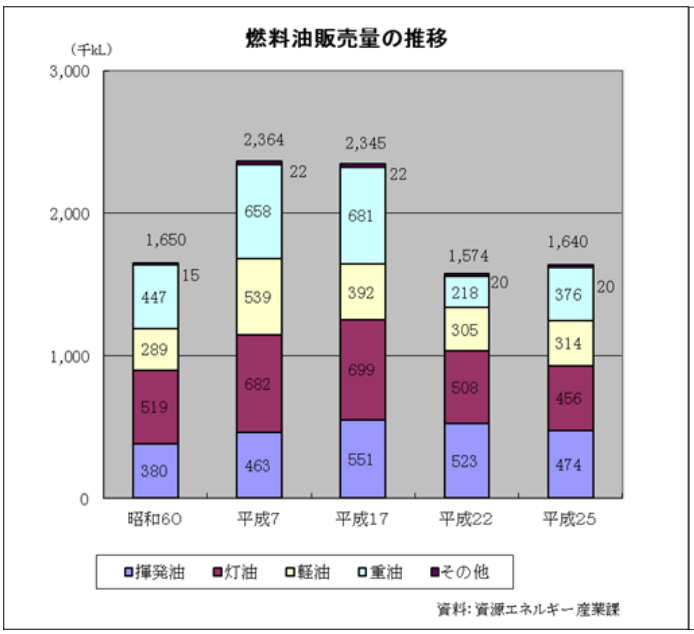
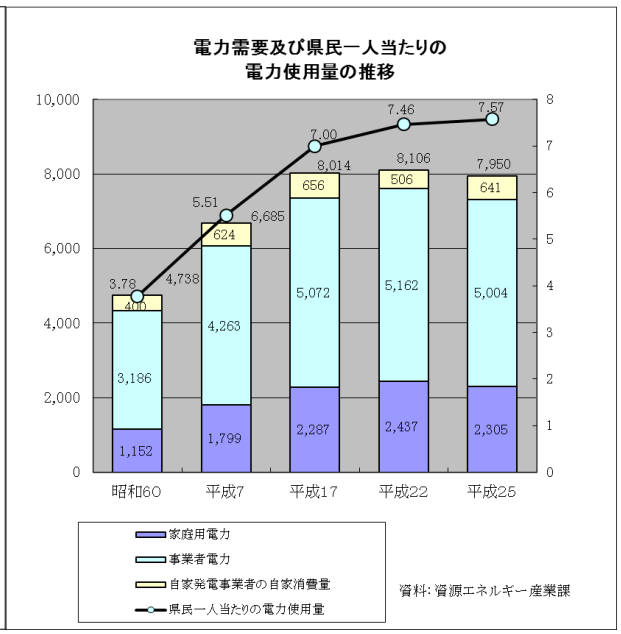




５　エネルギー

平成２５年度の県内のエネルギー需要は、２，５２６千ｋＬ（原油換算）であり、石油が６０．０％、次いで電力、ＬＰＧなどとなっています。

また、県民一人当たりのエネルギー使用量は２．４ｋＬであり、増加傾向にあります。

燃料油の販売量は１，６４０千ｋＬで、揮発油が２８．９％、次いで灯油、重油、軽油などであり、減少傾向にあります。

電力需要は７，９５０百万ｋＷｈで、事業者用電力が６２．９％、次いで家庭用電力、自家発電事業者の自家消費量となっています。また、県民一人当たりの電力使用量は７．５７千ｋＷｈであり、増加傾向にあります。